

3 調査推進のための各種活動

(1) 広報・イベント活動

ア ニュースレターの発行

2022 年夏号 (令和 4 年 6 月)・2022 年秋・冬号 (令和 4 年 11 月)、2023 年春号 (令和 5 年 3 月) の 3 回発行した。また、参加者さまよりご応募いただいた、お子さまの「お気に入りフォト」を表紙に掲載した。さらに昨年に引き続き、「遊んで!学んで!エコチルキッズ」と題した子ども向け記事や 13 歳以降の調査継続について、分かりやすく掲載し、「おしえて先生」など親子で楽しめる内容も提供した。

各号 (参加者あて約 11,400 部、市町村等関係機関あて約 910 部、計 12,310 部)



2022 年夏号 (令和 4 年 6 月発行)
2022 年秋・冬号から 2023 年春号は、資料編を参照

イ 活動報告書の作成

エコチル調査の毎年の活動状況を記録するとともに、調査にご協力いただいている行政機関、医療機関、教育関係機関など各分野の関係者への配布を通じ、調査への一層の理解促進と円滑な事業推進を図ることを目的とする。

(ア)今年度の実績

令和3年度活動報告書を 500 部作成し、7月に地域運営協議会委員を含む関係機関・団体等に配布した。

(イ)これまでの実績

平成 22、23、24 年度版活動報告書として平成 25 年度に発行して以降、平成 25 年度版以降は、各年度の翌年度に発行している。

なお、令和2年度版からは分かり易い内容・構成に見直すとともに、従来のモノクロからフルカラーとするなど、全面的な見直しを行った。

ウ メールマガジンの配信

学内の教職員及び学生向けに、エコチル調査のデータ集計結果や論文などを紹介する「情報発信：エコチル調査」を計11回配信

発行	配信日	トピック	論文紹介（筆頭著者所属名）
第58号	令和4年4月26日	ホームページにキッズページをオープンしました	家庭での犬の飼育と3歳時点の子どもの発達との関連（北海道ユニットセンター）
第59号	令和4年5月26日	エコチル調査シンポジウムがWEB 公開されました	アプガースコアと3歳時点での発達との関連について（神奈川ユニットセンター）
第60号	令和4年6月30日	一般向けの成果紹介パンフレットが作成されました	妊婦の水銀ばく露と妊娠糖尿病との関連（宮城ユニットセンター）
第61号	令和4年7月28日	「おうちで科学実験をしよう!」の動画配信を開始しました	1歳時のスクリーンタイムと3歳時の自閉スペクトラム症との関連（甲信ユニットセンター）
第62号	令和4年8月31日	参加のお子さんから励ましのメッセージが届きました	妊婦の血中元素濃度と新生児の出生時の体格について（千葉ユニットセンター）
第63号	令和4年9月29日	公式 YouTube チャンネルを開設しています	妊娠中における調理済み食品の摂取頻度と妊娠帰結との関連（愛知ユニットセンター）
第64号	令和4年10月27日	HP から様々な情報を発信しています	妊婦の鉛ばく露と生まれた子どもの性比との関連について（宮城ユニットセンター）
第65号	令和4年11月30日	「たまひよ web」でエコチル調査を紹介	妊娠中のたばこへのばく露と子どもの1歳までの感染症との関連（福島ユニットセンター）
第66号	令和4年12月26日	エコチルふくしま特別版「ブンケン歩いてゴミ拾いの旅」&課外授業を配信	妊婦の精神的ジストレス（不安・抑うつ）と3歳児の自閉症スペクトラム症の関連（福島ユニットセンター）

発行	配信日	トピック	論文紹介（筆頭著者所属名）
第67号	令和5年2月16日	村山輝星さん、魔裟斗さんをゲストに「エコチル調査シンポジウム」を開催	妊娠前の炭水化物摂取量と妊娠高血圧症候群の発症の関連（福島県立医科大学 産科婦人科学講座 小元敬大先生）
第68号	令和5年3月30日	プレスリリース「エコチル調査でわかってきたこと（福島版）」	妊婦の精神的ジストレス（不安・抑うつ）と2歳児の神経発達（福島県立医科大学 看護学部母性看護・助産学部門 森美由紀先生）

エ イベント等の開催

（ア）環境セミナーの開催

第5回エコチル★ふくしま環境セミナーの実施

【開催日時】 令和5年2月5日（日）14:00～15:00 オンライン開催

【対象者】 エコチル調査参加者

【参加者数】 8組 22名

【講師】 公益財団法人ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）
飼育展示統括部長 岩田 雅光先生

【目的】 エコチル調査参加者の環境問題に対する関心などにお応えすること

【内容】 テーマ「親子で学ぼう 海洋ごみと海の生物について」

私たちの生活の中に欠かせないプラスチックの一部が海洋ごみとなり、海の生物にどのような影響を与えているのか、クイズを交えて解説していただいた。

また、講師より、「海のごみはどこから来るのでしょうか?」、「海の生き物を助けるために自分たちでできることを考えてみましょう。」という投げかけがあり、参加されたご家族のみなさまで議論して意見を発表していただいた。参加したお子さまからは、「プラスチックごみを減らしたりして、海の生き物も幸せになってほしいと思った。」という感想があった。

ご家族みなさまで海洋ごみについて考える時間を共有していただくことができた。

第5回 エコチル★ふくしま 環境セミナー
オンライン開催



かいよう 親子で学ぼう 海洋ごみと海の生物について

私たちの生活の中に欠かせないプラスチックは、大変便利ですが、きちんと処理されずにその一部が自然界にごみとなり、最後は海に流れ出てしまいます。

このまま海のプラスチックごみが増え続けると2050年には海の中のすべての魚を合わせた量よりも海のプラスチックごみのほうが重くなると言われています。

プラスチックごみの現状と海の生き物に与える影響についての話を聞き、どうすればよいのか親子で一緒に考えてみましょう。



2023年2月5日（日）14:00～15:00

※PCやスマートフォンなど、接続環境をご用意の上、お申込み下さい。
データ通信費がかかりますので、Wi-Fi環境での視聴を推奨します。
セミナーの参加方法については、参加が決定された方へ、後日、別途お知らせします。

※参加費 無料

※募集定員 20組（お申込み多数の場合は抽選となります。）

※対象 エコチル調査にご参加のお子さまとそのご家族

オンライン開催 (Webex)



講師 公益財団法人ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）
飼育展示統括部長 岩田 雅光（いわた まさみつ）先生

シーラカンス展示に携わり、インドネシアやアフリカでの現地調査を行ってきました。近年は海洋プラスチックごみ問題の啓発活動にも取り組んでいます。

申込方法 エコチル★ふくしまホームページ

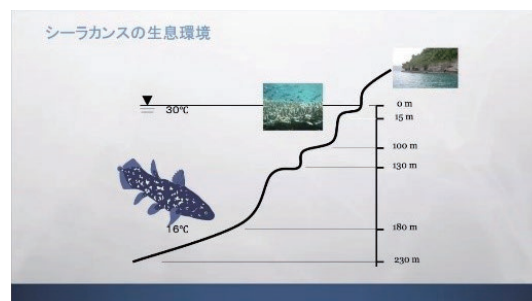
※イベント情報・申込フォームからお申込みください。

※PCメールの受信設定がされている場合は「@fukushima.jp」をドメイン指定して下さい。

申込期間 **2022年12月1日（木）～2023年1月5日（木）**

お申込みいただいた方には、2023年1月中旬頃に「申込結果のお知らせ」を郵送します。お申込みはご自由です。

お問合せ 福島県立医科大学 エコチル調査福島ユニットセンター 郡山事務所
☎ 024-983-4780（平日9:00～17:00）



(イ)エコチルふくしま親子ふれあい会の開催

【目 的】

- ①エコチル調査参加者親子・参加者同士そして参加者と福島ユニットセンターとのコミュニケーションを深める。
- ②参加者が、エコチル調査を長期間にわたり協力していただくためのモチベーションを高める。

【開催時期】

子どもの成長発達段階で重要といわれている時期に合わせて実施
県内全域で平成 24 年度から実施している。

【令和 4 年度実績】

新型コロナウイルス感染防止のためオンライン開催とした。

【前 期】

7 月 15 日～ 8 月 31 日「福島高校スーパーサイエンス部と一緒に、おうちで科学実験をしよう!」

- ・福島高校サイエンス部の生徒による科学実験動画の配信
- ・参加者アンケートへは、「家族みんなで楽しむことができました。」「説明もていねいで分かりやすかったです。」などの感想が寄せられた。

【後 期】

1 月「歴史たんけん まが玉をつくってみよう」

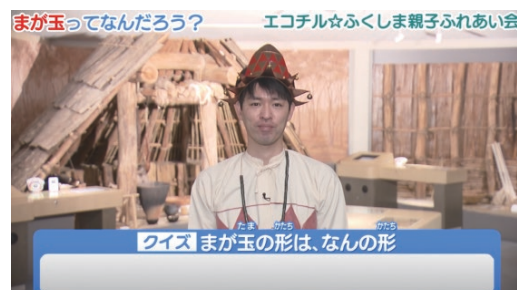
- ・白河市まほろん（福島県文化財センター白河館）の学芸員による歴史についての説明とまが玉作成動画の配信
- ・参加者アンケートへは、「子どもも大喜びで真剣になって作っていた。とても、良かった。」「兄弟で協力して作り上げることができて、とても嬉しそうにしていた。」などの感想が寄せられた。



小学 5 年生向け
「野菜パワーでロケットを発射しよう」



小学 6 年生向け
「へロンの噴水を作ろう!」



(ウ) 全県イベント

【目的】

- ① 福島ユニットセンターに属する調査参加者のモチベーションの維持・向上。
- ② 県民に対しては調査の知名度向上を目指し、エコチル調査の成果を親しみやすく紹介し、社会貢献性の高い調査であることを周知する。

【開催時期】

平成31年度（令和元年度）までは例年8月～9月に対面によるイベントを開催していたが、新型コロナウイルス感染症流行のため、令和2年度、令和3年度は中止となった。

【令和4年度実績】

令和4年度は、応募のあった小学生を中心とした親子10組22人が参加し、県内で知名度のあるインフルエンサーとともに、福島県立医科大学周辺で美化活動を行った。また「エコチル調査課外授業」と題し、大学講義室において参加者と双方向のやり取りを行いながら、福島ユニットセンター長が調査で得られた成果について発表を行った。

これらの模様を撮影した動画はそれぞれ、第1部「みんなで希望のカケラを集めよう」、第2部「エコチル調査課外授業」と題し、12月23日～3月31日まで福島ユニットセンター公式 YouTube にて公開し、各動画は3月31日までに約800回視聴された（一部動画は継続して公開）。

<告知チラシ>



<美化活動収録>



<成果発表収録>



<動画第1部：みんなで希望のカケラを集めよう>



<動画第2部：エコチル調査課外授業>



オ 市町村イベントへの参加

令和4年度いきいき健康づくりフォーラム in 田村において、エコチル調査のPR活動としてブース出展を行った。

【開催日時】 令和4年11月13日（日）9:30 開会 コーナー運営 10:00～15:00

【会場】 田村市総合体育館（田村市船引町船引字遠表400）

【実績】 いきいき健康づくりフォーラム全体の来場者：850人（主催者確認）

エコチル調査に関する資料の配布数：360部（参加者：15組）

【活動内容】 エコチル調査に関する掲示・説明等の広報活動

1. エコチル調査に関する資料の配布

環境省のパフレット、コアセンターのエコチルだより vol.18、おしえて先生特別版及びユニットセンターオリジナルグッズ（ティッシュ、ボールペン、クリアファイルのいずれか1つ）の配布（360セット）

2. 活動内容のパネル展示

パネルを用いて展示を行い、来場者が順路に沿って展示物を見ていただけるようなコーナー設計とした。展示内容について、来場された方へ説明を行い、理解を深めた。

展示内容について

①環境省エコチルポスター

②エコチル調査の概要・センターの取組

③エコチル調査でわかってきたこと（エコチル★ふくしま版）

3. 環境省の参加者向け情報提供動画の放映

ブースのパネルに環境省が作成した参加者向け情報提供動画を放映し、来場者に視聴いただいた。



カ その他の活動

(ア)グッズの配布

エコチル調査に継続参加していただくことを主たる目的として、全調査参加者にオリジナルカレンダーを贈呈した。また、質問票回収率向上のために、学年質問票にグッズを同封して送付した。さらには、エコチル調査の周知及び調査に対する理解を促す目的で各種イベントにおいて、広報用に作成したグッズを参加者に配布した。

(2) 地域運営協議会

ア 開催目的

エコチル調査の円滑な遂行を図るために、福島県地域運営協議会の他、県内地域ごとに4つの協議会（県北・相双、県中・県南、会津、いわき）を設置し、各地域の医療、保育・教育、行政（市町村）の約190名の方々に委員委嘱をしている。調査実績や今後の調査に関する情報発信、普及啓発を行うとともに、各方面の様々なご意見を伺うことを目的とし情報交流の推進を図る。

イ 開催状況

令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7月に福島県地域運営協議会をハイブリット形式により、11月に県北・相双地域運営協議会、会津地域運営協議会、12月に県中・県南地域運営協議会、いわき地域運営協議会をオンライン形式による開催により実施した。

ウ 議事内容

- 全国のエコチル調査の現状について（コアセンター）
- 本県のエコチル調査の実施状況、参加者への調査結果の返却等、参加率維持のための取組、学術活動、令和3年度年次評価書について（福島ユニットセンター）

エ 意見聴取等

全般的には、概ね調査に対しての労い、調査の継続に期待する声が多かった。

調査結果・分析に対する期待、本調査の知名度アップのための広報活動の促進、年次評価の評価基準に関すること、今度の支援や協力体制について様々なご意見があった。

会場とオンラインでの開催となったが、参加方法を状況や状態に合わせた開催方法だと参加しやすいという声があった。

(3) 関係機関訪問

訪問を通じてエコチル調査への理解と協力を求めるのが目的。

ア 市町村訪問

(ア)今年度の実績

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年9月から10月にかけて実施している訪問は行わなかったが、地域運営協議会の開催（オンライン、ハイブリッド）を通じて、活動状況等をお知らせし、理解と協力を求めた。

(イ)これまでの実績

調査開始時には、県内全市町村を訪問し、調査に対する理解と協力を求めた。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故によりリクルートを中断した南相馬市及び双葉郡8町村に対しては、調査開始時に対象地域であったことから、毎年訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査推進等について支援を依頼してきた。

イ 協力医療機関訪問

令和 5 年 3 月より医療機関訪問を実施し、8 歳詳細調査協力への御礼と 10 歳詳細調査の協力依頼と検査内容の説明を行った。3 月末までに 21 施設を訪問した。

また、令和 4 年度から協力いただいた 1 施設、令和 5 年度から新たに協力いただける 1 施設に訪問し、詳細調査（医学的検査）について説明、依頼した。

令和 5 年 7 月より学童期検査の一部である血液検査が開始になるにあたり、詳細調査協力医療機関の中で、調査協力の意向を提示していただいた医療機関 21 施設を訪問し、概要の説明を行った。

ウ 教育関連機関訪問

(ア)今年度の実績

訪問を再開し、5 月から 6 月にかけて福島県教育事務所と福島県小学校長会の関係者を訪問し、活動状況等をお知らせし、調査への理解と協力を求めた。また、10 歳詳細調査精神神経発達検査実施体制構築に向け、福島県教育庁（特別支援教育課）や市町村教育委員会を訪問し、協力依頼を行った。

(イ)これまでの実績

平成 23 年度に出生した子どもたちが平成 30 年度から小学校入学を迎え、エコチル調査について説明し、調査への理解と協力を求めるため、平成 28 年度から、福島県教育事務所及び福島県小学校長会の関係者を訪問している。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和元、2 年度は実施していない。

毎年、訪問時には、地域別に設置している福島県地域運営協議会委員就任について、各教育事務所長及び小学校長会役員の方々に依頼し、承諾をいただいている。

(4) 各種研修の実施

ア 代行研修

令和4年度は、ユニットセンター職員等 13 名に対し、センター長が講師として、「エコチル調査の概要、疫学研究の基本、環境、化学物質と健康」等の内容で入職時の研修を5回（令和 4 年 4 月 5 日、5 月 2 日、6 月 1 日、9 月 6 日、令和 5 年 1 月 10 日）実施した。

これまでに実施した医療機関、市町村、ユニットセンター職員等に対する研修は、累計 89 回、受講者は累計 771 名となった。

イ 職員研修

全職員を対象に次の研修を実施した。

開催日	研修名	所管
令和 4 年 6 月 27 日	前期職員研修 ・リスク管理、個人情報の取扱い・情報管理 ・教養講座「オンラインツール研修（Webex の基本的な使いかた及び実践的な活用方法）」 （講師：BIG BEN 飯島勉 株式会社 benefic）	福島ユニットセンター
令和 4 年 10 月 21 日	ダイバーシティ推進職場研修会	医大ダイバーシティ推進室

開催日	研修名	所管
令和 5 年 1 月 30 日	後期職員研修 ・リスク管理、個人情報の取扱い・情報管理、学 童期検査、詳細調査 ・教養講座「接遇マナー研修「伝わる話し方・聴 き取り方・聴き出し方、電話対応の基本」 （講師：(有) ヴォイス・プロ吉田いくよ、鈴木俊子）	福島ユニットセンター

ウ その他の研修

ユニットセンター主催の研修の外、コアセンターや学内機関等主催の各種研修にも積極的に参加した。

<参加した主な研修>

開催日	研修名	所管
令和 4 年 7 月 1 日 ～ 7 月 31 日	AED研修 (web)	福島ユニットセンター
令和 4 年 7 月 20 日	ダイバーシティ推進員研修会	医大ダイバーシティ推進室
令和 4 年 10 月 12 日 ～ 12 月 31 日	情報セキュリティ研修 (eラーニング)	医大学習情報センター
令和 5 年 1 月 17 日 ～ 1 月 28 日	メンタルヘルス研修会 (web)	医大健康管理センター
令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日	研究倫理教育研修 (e ラーニング)	医大医療研究推進課

(5) 小冊子の発行

福島県における調査の回答結果の中から、お母さんとパートナー（配偶者など）の生活習慣、育児を取り巻く環境、子育ての様子に関する項目をわかりやすくグラフ化し、わかってきたこととしてまとめたもので、令和5年3月に第2巻を発行した。

編集に当たっては、県内の教育関係機関の方々へのアンケートを参考に集計項目を選定し、7歳までの状況をまとめ参加者全員、地域運営協議会委員、協力医療機関、県内各小学校等に配付した。

エコチル調査でわかってきたこと（福島UC）vol.2

～ユニットセンター集計データリーフレット～

- 参加者及び関係者と、エコチル調査に寄せられたデータを共有する。
- **小学一年生までの集計結果（令和4年度作成）。**
（教育関連機関協議会委員のアンケート回答に基づき集計項目を選定）



幼児の生活や子育ての様子

- ・ 食生活
- ・ 歯の健康
- ・ 習い事
- ・ 外遊び（夏と冬）
- ・ メディア
- ・ 睡眠
- ・ 排尿・排便
- ・ アレルギー




育児をとりまく環境

- ・ 親子で過ごす時間
- ・ 保護者同士の交流の機会
- ・ 家族の喫煙
- ・ 子育ての環境
- ・ 育児・家事の協力状況
- ・ 育児・家事の役割分担の状況





子どもの健康と環境に関する全国調査

エコチル調査でわかってきたこと

Vol.2

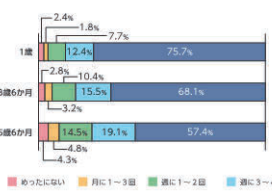
福島ユニットセンターにおける
質問票調査の回答結果より



公立大学法人福島県立医科大学
エコチル調査福島ユニットセンター

■ 育児・家事の協力状況

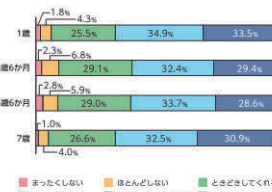
Q. お母さんとパートナー（配偶者など）が、子どもの話をすることはどのくらいありますか



年齢	まったくない	月に1～3回	週に1～2回	週に3～4回	週5回以上
1歳	2.4%	12.4%	1.8%	7.7%	75.7%
3歳6か月	2.8%	10.4%	3.2%	15.5%	68.1%
5歳6か月	1.4%	4.5%	4.3%	19.1%	57.4%

※ 年齢別：1歳 11,617名、3歳6か月 9,564名、5歳6か月 8,861名

Q. パートナーは、育児にどのくらい協力してくれますか



年齢	まったくしない	ほとんどしない	ときどきしてくれる	よくしてくれる	とてもよくしてくれる	パートナーは1人（7歳未満児のみ）
1歳	1.8%	4.3%	25.5%	34.9%	33.5%	1.9%
3歳6か月	2.3%	6.8%	29.1%	32.4%	29.4%	3.0%
5歳6か月	2.8%	5.9%	29.0%	33.7%	28.6%	2.8%
7歳	1.0%	4.0%	26.6%	32.5%	30.9%	5.1%

※ 年齢別：1歳 11,599名、3歳6か月 9,538名、5歳6か月 8,827名、7歳 8,983名

※ 2022年9月12日時点の福島ユニットセンターのデータに基づく集計結果です。